

■夏休みに向けて

明日から夏休みになりますが、まずは学習面、生活面、部活動など、1学期の反省をしっかりとしてみましょう。特に3年生諸君は、基本的に1年生のときから3年の1学期までの成績が進学・就職を問わず、志望校や志望企業に送られていくこととなります。大学や短大を推薦(指定校制や公募制など)で受験することを希望している諸君は、絶対的な条件の1つに評定平均値があります。3年生諸君には Handy で指定校推薦の一覧表を配信されていますが、もし志望校の条件に届かなかった場合には、総合型入試などで受験していくしかありませんので、この夏休みを利用してしっかりと準備をするようにしましょう。



各大学・専門学校のオープンキャンパスも夏休み中に開催されます。数年前までは「来る者は拒まず」というスタンスで受け入れていた学校が多くありましたが、近年は事前予約制であったり、人数制限が設けられたりするところが多くありますので、よく確認して参加するようにしましょう。

この夏休みの取り組み方次第で、受験の結果が大きく左右されます。1・2年生もまだ先と思わず、コツコツと学習を重ね、後悔しなくて済むようにしてほしいものです。

■指定校一覧について

3年生諸君に向けて、先日、今年度の大学・短大の指定校一覧が配信されました。それぞれの志望校、志望学部・学科について、指定校の枠が来ているか、よく確認してください。当然、求められる評定平均値、その他、欠席日数等の条件もしっかりと確認しておく必要があります。一覧表に記載がなくても、指定校推薦の場合には、「その学校を第一志望とする専願者」が基本的な条件に入っています。同じ大学の学部学科(例えば、日本大学工学部建築学科で1名の募集の場合)で複数の希望者がいる場合には、推薦会議で学業成績や課外活動などを総合的に判断して決定していくことになります。本来であれば、もっと計画的に進めていく話ではありますが、この夏休み中に積極的に何らかの校外活動(ボランティア等)に参加することも方法の一つになるでしょう。



総合型でチャレンジして、その結果いかんによっては指定校での受験・・・と考えている生徒もいるかと思いますが、その場合には「専願者」とはみなされません。確実に合格できる方を選ぶか、結果はともかくチャレンジしたい大学の受験を優先させるか、みなさんの判断になります。お家の方や先生方とよく相談して決定させてください。

■卒業生の合格体験記

卒業生の合格体験記。今回は令和5年度の卒業生で、1年間の浪人の末、この春、見事に東北大学をはじめ、多くの有名私立大学にも合格した奥山結斗さんです。いろいろ参考になることが書かれていますので、ぜひ今後の受験勉強に活かして欲しいと思います。

【合格体験記】 奥山結斗さん（令和5年度3年4組）

東北大学経済学部 明治大学政治経済学部

成蹊大学法学部・経済学部

明治学院大学法学部・経済学部

東洋大学法学部・経済学部

いずれも一般入試で合格

この度、私は幸いにも第一志望の東北大学に合格することができました。以下では、私が浪人を決意した理由と実践した勉強法、そして第一志望校合格のためのアドバイスを記したいと思います。

私が浪人を決意したのは、高校時代に取り組んだ探究活動がきっかけです。「通貨の価値や為替の仕組み」について調べる中で、経済という学問が社会や国際関係に大きな影響を与えているということに気づいたからです。特に、為替の変動が産業や消費者に及ぼす影響を分析していくうちに、より高度な知識と分析力を身につけたいと思うようになりました。そうした中で、実証的かつ応用的な経済学の教育・研究に力を入れている東北大学経済学部に強く惹（ひ）かれるようになりました。これらの理由から、現役時の「不合格」という悔しさをバネに、浪人してでも東北大学への再挑戦を決意したのでした。

現役時の反省から浪人時には、「苦手教科・科目の勉強を避けない」ことを徹底しました。現役時の不合格の原因を分析し、特に英語と数学の実力を高めることを優先的に考えて勉強しました。英語では、単語暗記に偏った学習を見直し、長文読解などに取り組む際には、文章構造を正確に把握しながら内容を深く理解する力を養うように努めました。数学では、基礎的な問題演習を繰り返し、本番でどのような問題が出題されても解答の方針を立てられる力を意識的に身につけられるようにしました。また、全科目に共通する勉強法として、先生方に解答添削を受けることが有効だと感じました。ミスの傾向は自分自身では気づきにくいため、添削を通して解答を客観的に見直すことは減点防止につながりました。

（裏面に続く）



現役時と浪人時の最大の違いは、勉強に計画性を持たせたことです。常に自分と志望校との距離を意識し、入試本番で合格点を取るために受験までの残り時間と進捗とを逆算して学習を進めるようにしました。受験本番のイメージが漠然としている場合には、「次の模試までにここまで仕上げる」といった短期目標を立てると効果的だと感じました。

受験勉強は長く厳しい道のりですが、自分の目標を信じて努力を続けてほしいと思います。すぐに結果が出なかったとしても、日々の積み重ねは必ず力になると私は信じます。後輩のみなさんがそれぞれ自分の信じた道を貫き、後悔のない選択ができることを心から願っています。それぞれの目標に向けて頑張ってください。

■ 日本学生支援機構の奨学金申込みについて

6月と7月の2回に分けて、日本学生支援機構の奨学金の予約採用の受付および入力作業を行いました。本日までに無事に終了する予定です。6月については、球技大会などの生徒会行事が当初の予定と変わったこともあって入力作業に多少影響したかと思われます。また、7月についても、急遽、野球部の全校応援が行事として入り、しかも雨で順延が続いてしまい、なかなか思うように入力の時間を確保できなかった生徒もありました。



入力後、各ご家庭から「奨学金確認書 兼 地方税情報の取扱いに関する同意書 兼 個人情報情報の取扱いに関する同意書」を郵送していただくことになっており、おそらく、特に問題なくお送りいただいたものと考えております。もし、提出書類等に何らかの不備がある場合には、日本学生支援機構から直接各ご家庭にご連絡が行く場合があるかと思われます。ご家庭となかなか連絡が取れない場合には、学校を通して連絡するよう依頼を受ける場合もございます。

いずれにしても、1月頃までには結果通知が届くものと思われます。結果通知に基づいて、大学や短大、専門学校等の入学手続きの際に指定の手続きを行っていただく必要があります。

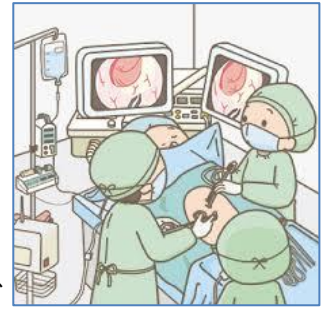
もし、「進学しないので必要なくなった」という場合には、結果通知をそのままお手元にお持ちください。結果通知に基づいて手続きをしなければ、日本学生支援機構の奨学金を申し込んだことにはなりません。

給付にしても貸与にしても、お金の支給は5月頃になるものと思われます。最もお金がかかる3月は自力で資金繰りをしていただくしかありません。仮に予約採用の申込みをしていなくても、大学や短大、専門学校等の入学手続きの際に申し込んでいただくことは可能かと思えます。その場合は、お金の支給は7月以降になります。予めご承知おきください。

■ 網膜剥離に罹患して思うこと

4月に行われた本校の歓迎会の翌日に何となく「右目（の内側）がかすんで見えるな」と感じました。てっきり筆者は、お酒の影響だとばかり思っていたのですが、数日たってもかすみは取れませんでした。ただし、両目だとはっきり見えるのであまり気にせず、日常生活を送っていました。

しかし、6月になってから右目だけで見たときに、内側がかすんで見えるというレベルでは済まない状況にあることに気づきました。さすがにこれではまずいと思い、授業中に心配してくれた特進コース3年の生徒たちから紹介されたいわき市内の眼科に足を運ぶことにしました。6月13日（金）のことです。ところが、すごく混み合っていて、その日は眼底検査をすることができず、別日に予約して検査することになりました。6月13日の時点では、お医者さんも「かすみの原因はよく分からない」という診断で、その日はかゆみ止めの目薬を処方していただいただけでした。お医者さんに診ていただいた後、看護師さんと少し話しましたが、「おそらく手術をする必要があります」と言われ、筆者も「そうだろうなあ」とその話に納得しました。



次の検査日は6月27日（金）でした。「眼底検査をすると、まぶしくて運転できなくなるので、徒歩で来てください」とあらかじめ言われており、眼科まで歩いて行きました。すぐに診察となり、医者から単刀直入に「網膜剥離ですね。すぐに手術することを勧めます」と言われました。網膜剥離の手術について、水戸市の病院を紹介され連絡を取っていただいたところ、「すぐに来てほしい」と言っていたようです。6月27日に伺ったいわき市内の眼科では、「手術をしたら、少なくとも1泊はしなければならない」との話で、「どんなに悪くても日曜日には帰って来られて、職場にも特に迷惑をかけないで済むな」との思いで足を運びました。電車の中で「網膜剥離」について調べていたら、「老化」が原因の一つと書かれていました。他にも原因はいろいろ挙げられていましたが、それ以外にはあまり心当たりはありませんでした。

実際、水戸市内の病院に到着して、診断を受けたところ、「今すぐに緊急手術することを勧めます。その場合、1週間ほど入院してもらう必要があります」と言われました。学期末で確認テストの計画などもしていましたので、少し悩みましたが、「緊急手術を勧める」ということは右目の状態は相当芳しくないのだと判断しました。学校に連絡して、緊急手術と入院の了承を得ました。

手術自体が初めての経験で、しかも目の手術ということで、今ひとつイメージがわかず、直前にはかなり緊張しました。以前に白内障にかかった方から、「目の手術は10分くらいであっという間に終わるよ」との話を聞いたことがあります。筆者の場合には40分ほどかかりました。目薬をさすような方法で何回かに分けて局所麻酔をしたことで、手術中は特に強い痛みを感じることはありませんでした。改めて医学のすごさを感じました。

まだまだ本来の状態から考えると気の遠くなるような状況ではありますが、7月上旬に職場復帰して先生方、生徒諸君から励ましの言葉をたくさんいただき何とかがんばって生活しています。7月14日（月）に退院後、初めて通院しましたが、経過は良好のようです。網膜を張りつけるためのガスがまだ半分近く残っているようですが、これが無くなっていくと「視界良好」となるということです。運転できないため、いろいろとご協力いただいている先生方もおり、本当に感謝の念に堪えません。「目について、気をつけよう!」と言われても、高校生のみなさんは今ひとつピンと来ないかもしれませんね。あまり暗いところで本を読んだり、スマホやパソコンをいじったりしないことは予防のうえで大切かもしれません。「健康の大切さ」を身に染みて感じる日々です。

文責：進路指導部 清水聖